

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動団体 甲斐のめぐみ

1. 事業の趣旨・目的

①母語でおこなう親・子参加経験型の日本語教室 — ほくと

経済のグローバル化が進んでいる中、日本国内への定住外国人は年々増加しています。山梨県にも多くの外国人が生活し、峡北地域においても北杜・韮崎市に計1178人の外国人が暮らしその中で公立学校に通っている子供達は37人います。

これから先この地でも、多文化共生に向けて外国人と日本人がお互いを理解し住み良い地域を創っていかなくてはなりません。そのためにも定住外国人の親と子供達が生活レベルでの日本語会話が可能になり、健康かつ安全で自立した生活が送れるように手助けするということを目的として開講しました。

②母語でおこなう親・子参加経験型の日本語教室 — にらさき

経済のグローバル化が進んでいる中、日本国内への定住外国人は年々増加しています。山梨県にも多くの外国人が生活し、峡北地域においても北杜・韮崎市に計1178人の外国人が暮らしその中で公立学校に通っている子供達は37人います。

これから先この地でも、多文化共生に向けて外国人と日本人がお互いを理解し住み良い地域を創っていかなくてはなりません。そのためにも定住外国人の親と子供達が生活レベルでの日本語会話が可能になり、健康かつ安全で自立した生活が送れるように手助けするということを目的として開講しました。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

①母語でおこなう親・子参加経験型の日本語教室 — ほくと

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2011 年 5 月 14 日 14 : 00 ~ 15 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・文化庁委託日本語教室 の意義について ・教室の体制・運営につ いての確認 ・生徒の募集について ・北杜市教育委員会との 連携について	・委員の自己紹介 ・北杜市の外国人 の現状、人数、国 籍の把握 ・他の日本語教室 の取り組みの紹 介 ・教育長への訪問 の日取り

2011 年 7 月 24 日 10 : 00 ~ 11 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・ 3 回の教室の振り返り ・ 講座内容の見直し ・ 生徒の募集について ・ 市役所の対応	・ 行事の中で日本語の漢字の読み書きをもっと取り入れる ・ 生徒の反応及び講師の講評
2011 年 9 月 20 日 10 : 00 ~ 11 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・ 教室の振り返り ・ 教材の確認 ・ 授業内容の確認 ・ 生徒の募集について	・ 親子での参加に対する課題について ・ 講師の講評 ・ 通訳の体制について
2012 年 1 月 13 日 14 : 00 ~ 15 : 00	菰崎市民センター	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・ 業務報告書の作成について ・ 今後のスケジュールの確認	・ 報告書の記入についての確認作業 ・ 次年度の日本語教室の企画について
2012 年 2 月 28 日 15 : 00 ~ 16 : 00	菰崎市民センター	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・ 業務報告書の確認 ・ 日本語教室の総括 ・ 生徒の感想・要望	・ 報告書の確認作業 ・ 日本語教室の反省、今後の見通し ・ 次年度の企画に対する意見交換



②母語でおこなう親・子参加経験型の日本語教室 ― になさき

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2011 年 5 月 14 日 14 : 00 ~ 15 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・文化庁委託日本語教室 の意義について ・教室の体制・運営につ いての確認 ・生徒の募集について ・北杜市教育委員会との 連携について	・委員の自己紹介 ・北杜市の外国人の 現状、人数、国籍の 把握 ・他の日本語教室の 取り組みの紹介 ・教育長への訪問の 日取り
2011 年 7 月 24 日 10 : 00 ~ 11 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・3回の教室の振り返り ・講座内容の見直し ・生徒の募集について ・市役所の対応	・行事の中で日本語 の漢字の読み書き をもっと取り入れ る ・生徒の反応及び講 師の講評
2011 年 9 月 20 日 10 : 00 ~ 11 : 00	団体理事長 自宅	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・教室の振り返り ・教材の確認 ・授業内容の確認 ・生徒の募集について	・親子での参加に対 する課題について ・講師の講評 ・通訳の体制につい て
2012 年 1 月 13 日 14 : 00 ~ 15 : 00	韮崎市民セン ター	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・業務報告書の作成につ いて ・今後のスケジュールの 確認	・報告書の記入につ いての確認作業 ・次年度の日本語教 室の企画について
2012 年 2 月 28 日 15 : 00 ~ 16 : 00	韮崎市民セン ター	矢崎元子 平賀光 加藤順彦 長坂香織	・業務報告書の確認 ・日本語教室の総括 ・生徒の感想・要望	・報告書の確認作業 ・日本語教室の反 省、今後の見通し ・次年度の企画に対 する意見交換



3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名

- ①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと
- ②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

(2) 開催場所

- ① 須玉ふれあい館、なごみの家、ふるさと公園等—ほくと
- ② 大草公民館、韮崎市民交流センター、地域の学校—にらさき

(3) 学習目標

- ① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと
 - ・遊びや体験、制作を通して、生活で使える日本語能力を高め、家庭で日本語を用いて会話をしたり地域の行事に自信を持って親子で参加し、地域に溶け込んでいける手助けを行う。
- ②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき
 - ・地域住民と交流を深め、多文化共生社会を創る基になる日本語を学ぶ。

(4) 使用した教材・リソース

- ①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと
 - ・「日本のくらし絵事典」 PHP研究所
 - ・「こどもきせつのぎょうじ絵事典」 三省堂
 - ・「学研の図鑑シリーズ」 学研
 - ・「世界のおまつり」 ほるぷ出版
 - ・「楽しく食べよう 食べ物絵本シリーズ」 農文協
 - ・「辞書引き絵本 漢字」 ひかりのくに
 - ・「いくぞ！カレー探検隊」 偕成社
 - ・「初めての茶道 1～3」 汐文社
 - ・「凧」 ぶんけい社
 - ・「生活図鑑」 福音館書店
 - ・東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターHP掲載教材
 - ・インターネット 子供のための日本語教育関連サイト
 - ・紙芝居 ・絵本 ・CD ・DVD ・折り紙 ・お花紙 ・新聞紙 ・画用紙
 - ・画材道具 ・各体験学習の制作材料や食材
- ②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき
 - ・東京外国語大学資料・防災博物館資料・自主教材

(5) 受講者の募集方法

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

- ①北杜市教育委員会を訪問し、本事業内容などを説明するとともに市内小中学校長に募集チラシ等の配布や対象児童への個別面談をお願いすることへの承諾を得る。
- ②市内小中学校を訪問し、募集チラシをもとに事業説明を行いながら、該当児童を教えて頂き、児童を通じて保護者に募集チラシを配って頂く事、個別面談をさせて頂くことを依頼する。
- ③市内小中学校訪問時に教えて頂いた家庭を、個別に面談をして事業内容を説明し、理解して頂いた上で、講座への参加をお願いする。
- ④町内の保育園・小学校・公共施設等にチラシの配布・配置をお願いする。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

- ①蕨崎市教育委員会を訪問し、本事業内容等を説明するとともに、市内小中学校長に募集チラシ等の配付を依頼することへの承諾を得る。
- ②市内小中学校を訪問し、募集チラシをもとに事業説明を行いながら、該当児童生徒を通じて、保護者に募集チラシを配付するよう依頼する。
- ③市内公立小中学校校長会時に、教育委員会を通じて本事業内容等について説明していただくことを依頼する。

(6) 受講者の総数

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

受講者の総数 14 人

（出身・国籍別内訳 フィリピン：6人 韓国：3人、タイ：4人、ネパール1人）

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

受講者の総数 15 人

（出身・国籍別内訳）中華人民共和国 10名 ブラジル 5名

(7) 開催時間数(回数)

① ほくと 60 時間 (全20回)

② にらさき 60 時間 (全20回)

(8) 日本語教室の具体的内容

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
---	------	-----	------	----------	-----------	----

①	6月12日 13:00～ 16:00	3 時間	11人	フィリピン国・タガログ語・英語（4人） 韓国・韓国語（3人） タイ・タイ語（4人）	教授者 2人 補助者 2人	「ゲーム(自己紹介)・野菜を 植えよう」
②	6月26日 13:00～ 16:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語（2人） 韓国・韓国語（3人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人	「七夕を作ろう！」
③	7月17日 13:00～ 16:00	3 時間	9人	フィリピン国・タガログ語・英語（4人） 韓国・韓国語（2人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「母国の紹介をしよう・お祭 りの準備」
④	7月30日 17:00～ 20:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語（3人） 韓国・韓国語（2人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「夏祭りについて知ろう、楽 しもう！」
⑤	8月 6日 9:00～ 12:00	3 時間	6人	フィリピン国・タガログ語・英語（3人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「坐禅を体験しよう」
⑥	8月21日 13:00～ 16:00	3 時間	10人	フィリピン国・タガログ語・英語（4人） 韓国・韓国語（3人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「野菜収穫祭(夏カレーを作 る)」
⑦	9月 4日 13:00～ 16:00	3 時間	7人	フィリピン国・タガログ語・英語（2人） 韓国・韓国語（2人） タイ・タイ語（3人）	教授者 2人 補助者 2人	「防災について学ぼう」

⑧	9月25日 13:00～ 16:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(2人) 韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(3人)	教授者 2人 補助者 2人	「人形劇」
⑨	10月8日 9:00～ 12:00	3 時間	6人	韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(3人)	教授者 2人 補助者 2人	「稲刈り体験」
⑩	10月22日 13:00～ 16:00	3 時間	7人	フィリピン国・タガログ語・英語(4人) 韓国・韓国語(3人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「お月見を体験しよう」
⑪	11月5日 9:00～ 12:00	3 時間	7人	フィリピン国・タガログ語・英語(1人) 韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(3人)	教授者 2人 補助者 2人	「秋の風景を描こう(写生大会)」
⑫	11月26日 9:00～ 12:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(2人) 韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(3人)	教授者 2人 補助者 2人	「日本の文化に触れよう(習字・茶道)」
⑬	12月10日 13:00～ 16:00	3 時間	9人	フィリピン国・タガログ語・英語(3人) 韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「お正月料理を作ろう」
⑭	12月25日 13:00～ 16:00	3 時間	10人	フィリピン国・タガログ語・英語(4人) 韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人	「松飾りを作ろう」

⑮	1月21日 9:00~ 12:00	3 時間	9人	フィリピン国・タガログ語・英語(2人) 韓国・韓国語(3人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「もちつき体験」
⑯	1月29日 13:00~ 16:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(4人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「風を作って風揚げ大会」
⑰	2月11日 13:00~ 16:00	3 時間	5人	フィリピン国・タガログ語・英語(1人) 韓国・韓国語(1人) タイ・タイ語(2人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「冬の夜空の下で夢を」
⑱	2月25日 13:00~ 16:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(2人) 韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「おりがみ教室」
⑲	3月10日 9:00~ 12:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(2人) 韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(3人) ネパール・ネパール語(1人)	教授者 2人 補助者 2人 通訳 1名	「施設訪問」
⑳	3月17日 13:00~ 16:00	3 時間	8人	フィリピン国・タガログ語・英語(4人) 韓国・韓国語(2人) タイ・タイ語(2人)	教授者 2人 補助者 2人	「1年のまとめ」

② 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	6月26日 13:00~16:00	3時間	10人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 東京外大資料（por用3年漢字練習1～3課）
②	7月3日 13:00~16:00	3時間	10人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 東京外大資料 （por用3年漢字練習4～6課）
③	7月30日 17:00~20:00	3時間	8人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 （地図を読み取る）
④	8月7日 13:00~16:00	3時間	2人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 （会話練習）
⑤	8月21日 13:00~16:00	3時間	5人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 （カレー作り手引きを読み取りながら作業する）
⑥	8月28日 13:00~16:00	3時間	3人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 東京外大資料 （por用3年漢字練習7～8課）
⑦	9月4日 13:00~16:00	3時間	8人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 消防庁資料（地震に自信）
⑧	9月11日 13:00~16:00	3時間	10人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 （聞き取り練習プリント）
⑨	10月2日 13:00~16:00	3時間	10人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 東京外大資料 （por用3年漢字9課）
⑩	10月16日 13:00~16:00	3時間	10人	中華人民共和国 中国語	教授者2人 補助者2人	自主教材 （似た言葉比較）東京

						外大資料(p o r 用 3 年漢字 1 0 課)
⑪	11 月 6 日 13:00~16:00	3 時間	10 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材東京外大資料(p o r 用 3 年漢字 1 1 課)
⑫	11 月 13 日 13:00~16:00	3 時間	9 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 登録手続き手引き
⑬	12 月 4 日 13:00~16:00	3 時間	8 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料 (p o r 用 3 年漢字 1 2 課)
⑭	1 2 月 1 8 日 13:00~16:00	3 時間	5 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料 (p o r 用 3 年漢字 1 3 課)
⑮	1 月 1 5 日	3 時間	6 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 (p o r 用 3 年漢字 1 4 課)
⑯	1 月 2 9 日 13:00~16:00	3 時間	6 人	中華人民共和国 中国語 ブラジル ポルトガル語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料 (p o r 用 3 年漢字 1 ~ 5 課復習, p o r 用 1 年漢字 1 ~ 2 課)
⑰	2 月 5 日 13:00~16:00	3 時間	5 人	中華人民共和国 中国語 ブラジル ポルトガル語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料 (p o r 用 3 年漢字 課 6 ~ 1 0 課復習, 1 年漢字 3 ~ 4 課)
⑱	2 月 2 6 日 13:00~16:00	3 時間	1 0 人	中華人民共和国 中国語 ブラジル ポルトガル語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料 (p o r 用 3 年漢字 1 1 ~ 1 3 課復習, p o r 用 1 年漢字 5 ~ 6 課)
⑲	3 月 1 1 日 13:00~16:00	3 時間	1 0 人	中華人民共和国 中国語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料

				ブラジル ポルトガル語		(p o r 用 3 年 漢 字 1 3 ~ 1 4 課 復 習, 1 年 漢 字 7 ~ 8 課
②⑩	3 月 1 8 日	3 時 間	1 0 人	中華人民共和国 中国語 ブラジル ポルトガル語	教授者 2 人 補助者 2 人	自主教材 東京外大資料(p o r 用 3 年 漢 字 1 ~ 1 4 課 復 習)(p o r 用 1 年 漢 字 9 ~ 1 0 課 復 習)

(7) 微的な授業風景(2～3回分)

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室 (ほくと親子日本語教室)—ほくとと
第4回「夏祭りについて知ろう・楽しもう！」

開催日時	H23. 7. 30(土)	場所	なごみの家・須玉町三輪神社
テーマ	「夏祭りについて知ろう・楽しもう！」		
内容	自分への参加賞作り・三輪神社どんどん火祭への参加		
実際の様子	①自分への参加賞づくり 前回残した「自分への参加賞」を作った。ビーズとワイヤーと短冊を使い、「飾り物」を先生に指導してもらいながら作った。細かいビーズをワイヤーに通すのは難しい作業だったが、みんな集中して作品作りをしていた。 ②三輪神社どんどん火祭への参加 なごみの家からお祭りへは歩いて移動した。到着して始めに、子供屋台の準備に取りかかり、看板を取り付けたり、三輪神社のお祭りについて説明を書いた模造紙を貼ったり、輪投げに使う道具を用意したりとみんな積極的に動いてくれた。そしてこのお祭りで食べられる「小豆ほうとう」をみんなで試食し、いざ開店。お店をやっている最中も大きい子は積極的に日本語を使いながら、お客さんを集めてくれ、ゲームをするお手伝いをし、最後に「ありがとうございました」と参加賞を渡していた。小さい子は大きい子のまねをして接客をしていた。お客さんがある程度になった所で、このお祭りの変わった風習である参拝をしに境内へ移動した。まず、2礼2拍手1礼で神社へ参拝した後、等身大のわら人形の腹掛けに小紙片で患部や体を拭いて入れ、拝むもので、みんな先生に習いながら神社に参拝し、その後思い思いの自分の体の直したい所を小紙片でさわわり人形の腹掛けにその紙を入れて拝んでいた。それが終わるとまた屋台に帰り、参加賞がなくなるまで、みんなでお店番をがんばり、その後自由時間として各自、お祭りを楽しんだ。外国人の人たちは、地域で行われる行事に参加することが少ないので、「楽しかった。参加してよかった。」と感想を述べてくれた。  		
反省	心配されていた雨がお祭りに行く前に上がり、子供屋台を無事出店する事が出来た。みんな積極的に屋台を手伝ってくれたり、お祭りに来ていた子供たちに積極的に呼び込みをして、輪投げをさせてあげたり、普段は出来ないコミュニケーションがはかれたと思う。		

第9回「稲刈り体験」

開催日時	H23. 10. 8(土)	場所	なごみの家・農家田んぼ
テーマ	「稲刈りを体験」		
内容	日本の秋の風景“稲刈り”を通して、日本の秋と日本語を学ぶ		
実際の様子	今回は「稲刈り体験」と題し、農家の方にご協力を頂いて、みんなで田んぼに稲刈りに出かけた。まずなごみの家に集合し、始めの一時間、日本語の学習を行った。前回と同じに、みんなに読みを書き込めるプリントを配り、それをもとに進めていった。「麦・米・農協・稲刈り・収穫・豊作・実り・天日干し・梨北・土・肥料・稲刈りがま」を基本に、それぞれの漢字の熟語や一つ一つの漢字の読み方、漢字を組み合わせて他の意味やその熟語の読み方、また似た意味の他の漢字を覚えたり、秋と稲刈りにまつわる言葉や漢字を勉強した。 学習の時間が終わると一息つき今回は先生が用意してくださったおいしい日本のごちそうを食べた。ここでは食べ物についての話題が出て、今回参加してくれた子供たちの国の料理について話してくれた。 休憩が終わるといよいよ稲刈り体験。みんなで今回協力してくださった農家の方の田んぼへ移動をして、早速作業にとりかかった。 まず始めに、農家の方から稲刈りがまの使い方を教えてもらい、みんなで端から順番に刈って行った。みんなかまで手を切らないように注意深く上手に稲を刈って作業をしていた。刈り取りがだいたいになると今度は刈った稲を束にして縛るやり方を教えて頂いた。なかなか束ねて縛るのは難しいようで、先生に手伝ってもらいながら丁寧に縛っていた。そして束ねて縛った稲を、うし(はざかけ)に掛ける作業をみんなで協力して行った。みんな稲刈りは、初めてで一所懸命楽しみながらしていた。最後に落穂拾いをみんなでしたが田んぼに、たくさんいたかえるがみんな気になって、落穂を拾いながらかえるを捕まえ子供同士で笑い合っていた。この日はすばらしい秋晴れのお天気で、日本の秋の一風景を感じてくれたように思う。		
反省	仕事の都合で保護者の参加は少ないが、子供たちはとても元気良く、意欲的に日本語を学んでいる。 今回も初体験の稲刈りに興味津々で、田んぼに着くなり積極的に稲刈りに参加していた。稲刈りしながら、少し手が空くとみんなでかえるを捕まえ遊んでいた。毎回来てくれる韓国籍の女の子達もはじめはもじもじして口数も少なかったが、今では先生にいろんなことを話したり、たずねたり、臆することなく日本語でしっかり会話をしている。 親子で参加できず子供だけの場合は先生達が協力して送り迎えをしてくれているので、交通手段が無くても安心して教室に来られるようにはなった。		

	前日に連絡を入れて、申込者全員に出欠席の確認をしているが、出席になっていても当日連絡無しに来ないことが目立ってきたので、これを改善させて少しでも来てもらえるように考えていきたい。
--	--

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

② 第2回 にらさき親子日本語教室

テーマ	会話力を高めるために、中国と日本の七夕祭りの違いの説明を聞き取ったり、短冊に願いを書く学習を行う。短冊に書いた願いを発表し合う。
内 容	日常使う日本語に親しみ、積極的に日本語を使うため、中国から伝えられた七夕が、日本ではどのように行われているかなどを聞き取る、また願いを短冊に書くなどの学習活動を行う。
実際の様子	①七夕の紙芝居 中国と日本の七夕の違いを知ってもらうために、七夕の紙芝居を見てもらった。興味深そうに見ていた。 ②中国と日本の七夕の違いを伝え合う。 紙芝居を見た後、中国の七夕祭りについて話してもらった。中国では特別なお祭りはしないなどと説明してくれた。 七夕に関わる「織女、牽牛、天の川」について、日本語で説明してもらったが十分伝えきれない。通訳を交えながら、中国語と日本語の表現の違いをお互いに学び合った。中国人にとって、漢字や「かな」についての理解は十分あるし、読むこともできるが、会話力が十分ではない。生徒自身も「漢字やひらがなは書いたり、読めたりするが、スピーチができないので、話す力を付けたい」という願を持っている。日本人にとっても、中国語は難しい言葉のひとつだ。特に発音が難しい。それを考えれば、生徒の日本語会話力が、特段に「低い」という事ではない。 ③ 短冊に願いを書き、それを読む。 生徒が望んでいる事を、短冊に書いてもらった。日本では、七夕の時に、短冊に願いを書き、笹に結びつけて祈るとその願いが叶うという言い伝えがあることを説明した後、生徒一人一人に願いを書いてもらった。その後、お互いの願いを発表しあった。生徒一人ひとりの願いをホワイトボードに書いた。全員が発表し終えた後、チェックをしていった。
反 省	生徒がこの教室に参加しているのは、「遊びたいから」ではなく、会話力を高めて、地域や学校の諸活動に積極的に参加し、日本人と同じように責任を果たしたいという思いが強いからである。その願いに積極的に応えるために、「日本語検定」に挑戦させることも、日本語会話力向上に有効ではないかと考えた。



第2回にらさき親子日本語教室

短冊に、願いを書いて、笹に結び飾ると願いが叶うという説明をした後、日本語で各自願いを書いた。「ほうしゃのうがなくなりますように」「さいがいから、はやくたちなおれるように」など、東日本大震災からの復興を祈る短冊が多かった。

第5回 にらさき親子日本語教室

テーマ	会話力、語彙力を高めるために、カレー作りをしながら、コミュニケーションを深める
内 容	日本語に親しみ、積極的に日本語を使うため、サラダとカレーを作る。また、料理に関わる日本特有の言葉を学ぶ。
実際の様子	① 材料を知る サラダやカレー作りで使う、自分たちで育てた野菜で作れるメニューを確かめる。材料や調理用具を準備しながら、「中国にはカレーはなかったが、日本の外食産業が中国に出店したことから、食べる機会が増えた」などの情報交換があった。全員で、役割を決めながら、キュウリを刻んだり、ジャガイモを潰したりしながら、「輪切りにして」「輪切りって何?」「千切りにして」「千切りって何?」など、料理に関わる言葉で、小さな学習が深められていった。 ② 盛りつける。 全員で作った料理を盛りつけて、テーブルに並べた。料理が、盛りつけられた様子を見ながら、「みんなで作った料理だから、おいしいよ、きっと」などと言いながら、テーブルについて、食事が始まった。 食事をしながら、中国の家庭の食事風景や中国の物価の話、中国新幹線事故、などの話で、盛り上がった。「給料が増えたけど、物価も上がった」「中国にいる子どもが、今、上海で一人暮らしをしている」「その家の息子が結婚すると、親が家を建ててあげる。娘の場合は、家具などを買いそろえてあげる」など、たくさんの話題で会話が進んだ。 ③ フリートーキング 食事の後、「輪切り・味がでる・灰汁・ふきこぼれる・サイコロ切り・ご飯を炊く・お米をとぐ・つまみ食い・大皿、小皿・沸騰する・混ぜる」などが分かるかどうか学習した。知らない料理言葉も多くあった。 また、「子どもが中国語を覚えなくて困っている。中国に一時帰国しても、子どもは中国語が分からないので、親戚と上手くつきあえないことが心配だ。」との相談に、「中国語が話せるのはお母さんだけだから、お母さんが積極的に中国語で語りかけた方が良いです。」と県立大学の長坂准教授が答えた。中国語が話せない中国人になることを心配している親御さんは多いと思う。子どもたちへの中国語学習も必要であると思う。
反 省	料理を仲立ちに、日本語学習を行ったが、興味を持って学習出来ていた。自分たちで育てた野菜なので、興味も深まったようだ。特に、料理に関わる言葉に興味を持ったようだ。



第5回にらさき親子日本語教室

生徒は、「輪切り、さいころ切り、米をとぐ」など日常生活で実際行っていることだが、切り方と言葉が結びついていないので、「これが輪切りだったんですか、知りませんでした！」などと言葉と実際が結びついたこ

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

対象は「親と子」であったが、親の皆さんは、仕事の都合で参加できないことが多く、子供だけの参加での教室が多かった。子供達は学校行事等で来られない時もあったが、どの子も楽しい場所として通ってきてくれていた。十分とは言えなかったが、地域に住み人たちとの交流や日本文化、日本の風習に触れることによって、語彙を増やし、日本語(ひらがな・カタカナ・漢字など)に親しむことが出来るようになった。また臆することなく、友達や先生、地域の人たちに日本語で、コミュニケーションをとっていきけるようになってきた。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

親子での参加が多かった。農家の女性は、農繁期には学習の途中で帰宅したりしなければならないこともあったり、また家庭に要介護の義父や義母がいるため、教室を休みがちな生徒もいた。家庭にはそれぞれに事情があり、本教室で悩み事や愚痴を言い合うことで、気持ちを楽にしていた。

また、日本語で自分の気持ちを表し伝えることが十分ではないが、できるようになってきた。

(2) 学習者の習得状況

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

参加してくれた親子の皆さんは、すべて日本人配偶者を持ち日本に定住している人たちだったが、家庭や学校で使われる日本語は限定されていた。しかし日本語教室で日本語をただ机の上で学習するのではなく、学んだことを体験、交流という形で覚えられるようにしていったので、使える日本語を少しずつ身につけられるようになった。また普段触れることの無い日本の風習や文化を知り、定住している日本への興味や地域行事への関心が高まったように見受けられた。

② 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

生徒は、定住地域の住民と、十分とは言えないが、交流できるようになったと、話している。日本語に慣れることで、日本語(ひらがな、かたかな、日本の漢字等)に親しむことが出来るようになってきた。

家庭で使われる日本語の語彙数は限定されている。ブラジル人男性は、在日16年であり、会話はできるが、文字が十分ではない。本教室での学習は、体験活動をとおした、実感に基づいた日本語学習だったので、使える日本語(漢字、ひらがな、かたかな)を少しずつ身につけてきた。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

参加してくれた親子の皆さんは、子供達は学校で日本語で触れ合ったり、日本人の友達とのつながりはあるが保護者においては家庭以外の日本人と長時間目的をもって交流したりすることはなかった様子だったので、この教室に楽しみで通ってきてくれた親子の方もいた。初めはあまり話さなかったが、回を重ねるごとに臆することなく会話をし、積極的に物事に関わってきてくれるようになった。先生や地域の人たちとも、言い間違いを気にせず会話をすることが出来るようになってきた。また北杜市は広く学校もいくつか分か

れているので、外国籍また片親が外国人の家庭は一枚あたりにおいて非常に少ないので、日本語教室に参加することで自分と同じ状況の家庭があることに安心する様子もあり、日本語教室の役割はただ言葉を学習するのではなく来てくれた親子の居場所の一つとなる役割も果たしたように思う。

② 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

本教室の生徒は中国人とブラジル人である。同国人同士の横のつながりはあったが、家族以外の日本人と長時間、目的を持って交流することはなかったと話している。この教室に楽しみで通ってきたと感想文に書いた。臆することなく話し、言い間違いなどを気にせずに、会話するようになってきた。ブラジル人は中途からの参加であるが、緊張しながらも日本語学習に積極敵に取り組んできた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

- ・北杜市教育委員会(情報提供・後援)
- ・北杜市役所子育て支援課(情報提供・イベントへの参加依頼)
- ・北杜市立小中学校(情報の提供、児童参加への依頼、個別面談に対しての手助け)

行政や学校側が関わってくれたことにより、受講対象者への呼びかけがとてもスムーズに出来た。それぞれが出来る分野に対し、真摯に対応してくれ協力し合える関係が築けたことはとても大きい。また教授者や補助者、イベントへの参加など、より多くの日本人と会い、地域の人たちがいる場所に行くことにより、受講者が地域を知り日本人を知りより深く自分が生きて行く場所とのかかわりが出来てきているように思えた。とてもちいさなふれあいだったが、地域における多文化共生の一步として地域の方々受講者双方にとって効果があったように思える。

② 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

・教授者や補助者、教授者等の関係者と知り合いになりながら、地域に溶け込む術を身につけてきたように思える。「もちづくり」の後、公民館で活動していた地域の人に「食べてください」と「もち」を届けるなど、大草公民館で活動する人たちと小さな交流ができるようになった。

(5) 改善点、今後の課題について

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

一番の問題は日にちの設定だった。子供達は学校があるので、土、日曜日で良かったが、どうしても親子一緒に参加となると、仕事をしている保護者の皆さんは、なかなか通って頂くことが困難だった。子供たちの日本語能力よりも保護者の能力のほうが大変な場面が多かったので、保護者が通える時間帯での別の日本語教室の設置が必要に思えた。

また、市内に住む外国人の人たちは、同国間では繋がりがあるが、それ以外の繋がりがないので、日本語教室が日本語を教える場所だけでなく、外国人の交流の場になり、行政や地域の情報を取得できる場所になれば、地域の人たちとのつながりも増えていくのではないかと思え、市内に住む外国人のための日本語教室も必要ではないのかと感じた。

② 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

外国人によって日本語学習の目的が異なるので、その目的毎の教室設置が必要であり、スタッフを増やし、外国人のニーズに合わせた学級作りを進める必要がある。

- ・資格取得のための日本語学習(介護士, 日本語検定受検等)
- ・地域での責任を果たすために必要な日本語学習(PTA活動, 地区の行事等)
- ・家庭生活をより快適にするための日本語学習 等

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室(ほくと親子日本語教室)—ほくと

最後に講座評価として、受講生たちに作文を書いてもらった。保護者の方々は、ほとんど来ていないので、子供達に「日本語教室に参加して」の内容で、自由に作文を書いてもらった。またまだ就学していない子供には「日本語教室で楽しかったこと」をテーマにした絵を描いてもらった。

※作文・絵は、コピーをして他の書類と一緒に郵送します。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室(にらさき親子日本語教室)—にらさき

アンケート(別紙)からも効果的な教室だったといえる。

- ・外国人と心を通わせながら、学習を進めようと努めた。良好な人間関係を作ることができ、学習に活かした。
- ・日本語学習よりも仲間と、楽しく遊びたいという要望があった。生徒の要望を学習にどのように活かしたらよいか、スタッフと検討しながら、体験学習を中心に日本語学習を進めてきたのは効果的だった。
- ・家族から「日本語教室に行かなくていい」と言われた生徒もいた。「日本語が分かるようになると都合が悪いことがあるのでは」などと話す生徒もいた。生徒が本音で話せる場づくりができた。
- ・日本語学習以外に、外国人が日本で生活する上での不安や不満等への対応に難しさがあったが、「ハート51」のコーディネーターから助言を受けながら、状況に応じた対応ができた。

③ 実施主体からの研修内容結果評価

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室(ほくと親子日本語教室)—ほくと

・「母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室(ほくと親子日本語教室)」を通して、今回主に教授してくれた先生方は皆、学校現場で働いてこられた先生方だったので、教えることはもちろん、子供や保護者に対してのフォローをきめ細かくしてくれたので、安心して教室運営が出来たように思う。また先生達のおかげで地域の小中学校との連携もとてもスムーズ行き、受講者と先生方の信頼関係も早くから進んだ。

また、講座や日本語指導の進め方については、受身の学習が3時間続くことは子供達には難しかった。休みを入れながら1時間～1時間30分くらいが限界で、この後に体験や交流を入れることで、学ぶ意欲や楽しみがましていたように思う。親子で何か1つの目的をもって何かするという機会は少ないので、学習だけでなく、親子のコミュニケーションズ作りにも役だっていたように感じる。このことによりスムーズな日本語指導が出来たように思う。

ただ今回の受講者は年齢の幅が広くどこにあわせて教えていくかは苦勞した。言葉のプリントでも、どの年齢の子供達も飽きずに学習できるように試行錯誤しながら作成した。初めは親にも大きい子も小さい子にも同じものを配布して行っていたが、回を重ねることによりプリントを2種類にわけ(大人・大きい子用

と小さい子用)、手の空いている先生が授業を聞きながら、戸惑っている子やわからない子供に声をかけて丁寧に教えるようにした。受講者は学習と体験・交流を通して、使える日本語を今以上に少しずつ身につけていけたように思う。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

・「親子参加型」の本教室なので、「実施主体からの研修内容～」には合致しないが、教授者、補助者が『「生活者として外国人」のための日本語事業』の趣旨を知り、そのカリキュラムを読む事で、在日外国人への理解が十分ではなかったことが分かったのは、大きな成果であったし、地域に住む外国籍の住民への関心が持てたことは、本教室の成果と共に、本事業から学んだ大きな成果であった。本教室終了後も、この経験を活かし、定住外国人と交流を深めていく。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

① 母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

NPO法人としての既存の活動と関連づけながら、地域に居住する外国人との交流、支援等を工夫していく。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

・本教室は継続しないが、お互いを信頼し合える関係ができていると思うので、地域に住む外国人と積極的に話をしていく。特に、小中学校へ通学する外国籍の児童だけでなく、義務教育を受けていない児童の実態にも関心を持ちながら、ボランティアとして、必要に応じて支援をしていく。

（11）事業の成果

① 他事業との連携

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

・北杜市子育て支援課からの依頼で、北杜市主催のフェスティバルに日本語教室のブースを設けて参加し、地域の人たちに教室の様子を知ってもらうことができた。

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

・韮崎市教育委員会を訪れ、教育長をはじめ、課長、課長補佐等に説明をし、事業への協力を依頼した。事業を理解していただき、後援名義の使用を許可していただいた。また、各小中学校校長の理解を得ながら、生徒募集等に協力をいただいた。市内の校長会時に、教育長から各校長に話をしていた。生徒の状況から、積極的な「他事業との連携」は作れなかったが、市立図書館での「登録」作業や公立美術館での学芸員との交流など、小さな交流学习は作れた。

④ 研修後の人材活用

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

・日本語教室の設置運営事業は一旦切りとなるが、来年度以降決まっているNPOの事業（中国語教室など）の中で、活躍して行ってもらう。

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

- ・受講生が地域の中で、自身の役割を果たせるように、補助者、教授者の経験を活かしながら、支援をしていく。「教室」は終了するが、生徒たちと月に一回は茶話会を持つなどしながら、NPOのスタッフと連携して、必要に応じた支援を行っていく。

(12) 今後の課題

①母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

- ・私達が把握していない、日本語に苦労している外国人やその子供達は、事業を始める際調べた北杜市在住の外国人や子供達の数を見るとまだまだ存在していると感じる。そこで今回得た関係機関とのつながりをもとに、行政や教育関係施設とこれからも連携をとり続け、このような人たちの手助けとなりえるような機関や居場所が作れるように協力していく必要があるように思う。

②母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

- ・本教室は、本年度で終了する。これまで、同国人同士の「つながり」を頼りにしていた生徒たちだが、身近に、本教室の指導者や支援者がいることを知ってくれたと思う。こうした人間関係をどのようにつなげていくかが課題である。事務的な処理で終わらないように、ボランティアとして関わりを深めていく。

③ 今後の活動予定、展望

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（ほくと親子日本語教室）—ほくと

- ・事業は今年度で一旦区切りになるが、年に2～3回ほど今回参加してくれた受講者達と懇親会を開き、困っていることがあればいつでも手助けが出来る体制を作っていこうと思う。

又今回参加してくれた家庭以外に、日本語に苦労している外国人やその子供達はまだまだ存在しているので、今後さらに行政・教育関係施設と連携をとり続け、今回学んだノウハウや知識を活かし手助けを行っていけたらと思う。

○母国でおこなう親子参加体験型の日本語教室（にらさき親子日本語教室）—にらさき

- ・平成23年度の事業で終了し、今後特定の教室を開催する予定はないが、しかしお互いが（生徒、指導者）これまで育ててきた人間関係を維持し、困ったことがあったら、連絡を取り合い、問題解決への支援を約束した。見えない所で悩んでいる外国人は多いと思う。日本人と結婚をして、幸せな家庭を築いている外国人ばかりではないだろうから、「友達の友達は、友達」という思いを持って、連携の輪を広げることができればいいと思っている。

(6) その他参考資料

- ※(10)①にも書きましたが、最後のまとめとして書いてもらった作文・絵は郵送書類と一緒に送らせて頂きます。—ほくと、にらさき